2018. 8. 8

日刊岩手建設工業新聞

高校生らに対象に見学会

測量から検査まで 自社でICT活用

南建設

現場代理人らが現場を案内

南建設㈱（本社・軽米町、南勉代表取締役社長）は2日、高校生らを対象とした現場見学会を開いた。対象現場は、三陸沿岸道路「洋野階上道路」の堤沢地区道路改良工事。同現場では、測量から設計・施工計画、施工、検査までの一連の流れにおいて、自社所有のICT重機・機材を用い、ICT技術を活用している。工程全体でICT技術を活用するのは同社初。当日は、若者に最先端技術を体感してもらい、建設業の魅力を伝えた。

同現場には、県立福岡工業高等学校や県立軽米高等学校の生徒、社会人の計7人が訪問。同社側からは、小林勝利取締役工事部長や種市宏幸取締役営業部長のほか、i-Construction担当の田中一也取締役社長室長、三上健伸現場代理人、四役雅和監理技術者らが参加した。

小林部長は冒頭のあいさつで「私たちは道路などの生活基盤を造っている。本日は、積極的に取り組んでいるICT施工を紹介したい。建設業のイメージを変えてもらい、就職先の候補に考えてもらえればうれしい」と呼び掛けた。

三上現場代理人は工事内容を紹介し、10トンダンプで盛土材を運搬した後、ブルドーザーで土を敷き均し、ローラーで転圧している。バックホウでは斜面となる法面の整形を実施している」と作業の流れを説明した。

田中室長は、同現場で実際に取り入れているICT技術を説明。「ブルドーザー前方の左右にあるGPS受信機で位置を把握し、設定した高さで敷き均しができる。ローラーで土を締め固める際には、何回転圧すれば十分という決まりがあるが、ICTを導入したことによりモニター上の色分けで把握できる」と有効性を紹介した。

ICT施工が進む堤沢地区道路改良工事

生徒たちは土砂運搬や土の敷き均し、転圧の様子などを見学。見学後には現場事務所で座学を実施した。座学では、地上レーザースキャナを利用した3次元起工測量の点群データのほか、3次元現況データ・設計データなどを見て、技術の進歩を体感していた。

福岡工業高校3年機械システム科の内沢洸太さんは、「重機の動きが大きくて驚いた。オペレーターの仕事をしてみたい。父が南建設で働いている。建設業への興味もあり、今は南建設で働きたいと思う」と将来を見つめていた。

三上現場代理人は「周辺の工事量が多く、作業員が少ないという課題もあったが、ICTの導入で人手不足をカバーできたと思う。この先もICT施工が中心になるだろう。高校生の皆さんが将来の仲間となった時、最先端の技術を活用して一緒に頑張りたい。一連の流れを自社で出来ることは強み。この先もICTを勉強したい」と意気込みを語った。

同社では、これまでも高校生らを対象とした現場見学会を実施してきた。今後も学校と相談しながら、担い手の育成や若者の定着、現場技術・ICT施工技術の研さんに力を注いでいく方針だ。